

JNTOクアラルンプール事務所

山本 佳波 次長

<101>

マレーシアはマレー系、中華系、インド系などさまざまな民族が暮らす多民族国家である。その中にはマレー系の人口が最も厚く、全体の60%を占めており、大多数はムスリムである。訪日マレーシア人数の民族別割合をみると、全体の50%は中華系が占めており、マレー系の割合は比較的少ない状況であるが、近年、旅行博における一般消費者向けアンケートや旅行会社へのヒアリングによるとその割合は徐々に増えている。今後さらなる訪日者数の回

ムスリムの訪日旅行



復や底上げを図るためにはムスリムであるマレー系の誘客も重要な要素の一つだ。

食事やお祈り場所等、受け入れにあたっての配慮という側面で、国内におけるムスリム向け対応の遅れを懸念する声を聞くことがある。しかし、当所で2022年に実施したマレーシアのムスリム一般消費者向けアンケート

歓迎の気持ちから誘客拡大へ

1トによると、回答数約400件のうち、53%は訪日経験があり、「日本のムスリム対応についてどのような印象があるか」という問いに対しては95%近くの間答者が日本の受け入れ環境に対して前向きな印象を持っている結果となった。実際に、「グローバルムスリムトラベル指数(GMT I)2023」において、

ム対応されていないことはある程度理解している。でも受け入れようとして取り組んでくれているところがうれしい」と話す。つまり、そこまでハードルを高く思わず、まずはできることから取り組むことでムスリムの方にとっては選択肢が増え、また、ムスリム旅行者歓迎の姿勢を好意的に受け取ってもらえる。

日本はイスラム協力機構非加盟国ランキングで6位に選ばれている。訪日経験のある、とあるマレーシア人ムスリムの方は「非イスラム圏に行くのだから、完全にムスリムはかま体験を楽しむムスリム旅行者(神戸市)

マレーシアにおけるムスリム旅行者の特徴として、食への不安から大量の食材を自国で入手して旅行に行く人も一定数いる。しかし、せっかく旅行に行くのだから現地ならではの食事を楽しみたいと考えている人も多い。メニューが日本語表記のみであったり、原材料が書かれていないと、料理に何が含まれているかが分からず不安という

声を聞くため、レストラン等においてはあらかじめ原材料を含む、メニューの英語表記やピクトグラム等の図を用いて豚やアルコール不使用である旨を明示することで、ムスリムフレンドリーと理解いただけることにつながる。

当所でも、「Muslim travel Guide」というウェブサイトを運営し、ムスリム旅行者向けにムスリムフレンドリーな施設情報や、旅行のヒントとなる記事を掲載し、継続的に情報発信を行っている。近年では日本国内でもムスリム向けの新サービスや、地域としてムスリム旅行者受け入れの力を入れている自治体も増えてきている。ムスリム旅行者に安心して訪日してもらえよう、今後も国内関係者とともに連携しながら誘客を行っていく。

(月1回掲載)